

第2回日本スポーツグランプリ受賞者（功績）

1.	いわた さぶろう 岩田 三郎	（男） 83歳	神奈川県	バレーボール	活動歴： 62年	顕彰対象区分（1）
<p>少年期よりバレーボールに取り組み、中学、大学、実業団で活躍をする。また、大学、実業団時代においても、全日本大学選手権大会や全日本実業団大会で優秀な成績を収めている。昭和60年からはソフトバレーボールをはじめ、全国スポーツレクリエーション祭、ねんりんピック等、数多くの大会に出場し、現在も生涯スポーツとしてのソフトバレーボールの現役選手として活躍している。</p>						
2.	くしろ としろう 久代 敏郎	（男） 90歳	新潟県	ラグビーフットボール	活動歴： 67年	顕彰対象区分（1）
<p>17歳からラグビーを始め、90歳の現在まで、選手及び指導者として活躍している世界最高齢のラグーマンの一人である。東日本不惑大会には第8回（昭和54年）から第35回（平成18年）まで連続28回、関東甲信越不惑大会には第1回（昭和61年）から第21回（平成18年）まで連続21回出場している。</p>						
3.	なかしお ぜんじろう 中塩 善治郎	（男） 84歳	宮城県	陸上競技	活動歴： 73年	顕彰対象区分（1）
<p>永年、選手として輝かしい成績を残す中で、特に第14回（平成15年）全日本マスターズ混成競技選手権大会においては、重量5種競技（砲丸、円盤、ハンマー、槍、重量）男子80～84歳の部で大会記録の樹立と重量投げでの日本記録を樹立する。アジアマスターズ大会には9回連続出場し、そのうち3大会においてハンマー投げで優勝するなど、現在も活躍をしている。</p>						
4.	やまだ くはち 山田 九八	（男） 82歳	青森県	スキー	活動歴： 66年	顕彰対象区分（1）
<p>少年期よりスキーに親しみ、全日本選手権大会、国民体育大会、全日本マスターズ大会などに出場し、クロスカントリー競技では数多くの入賞を果たしている。現在でも、冬場のレースに備え、春より秋までジョギングや自転車等でトレーニングに励んでおり、特に、全日本マスターズ大会では、平成3年から現在まで、19レース中18回の優勝を果たしている。</p>						
5.	あくつ かずなが 坏 一長	（男） 95歳	大阪府	水泳	活動歴： 87年	顕彰対象区分（2）
<p>8歳より古式泳法（水府流）を始め、学生時代は水泳部で活動するほか、古式泳法の免許も取得する。定年退職後にマスターズ水泳大会出場に向け、本格的に水泳を再開し、今日まで長水路、短水路の自由形、背泳ぎ、混合200mフリーリレー等で世界記録を樹立など、95歳の現在も意欲的にマスターズ水泳競技に取り組んでいる。</p>						
6.	たなか じゅうじ 田中 重治	（男） 84歳	山梨県	陸上競技	活動歴： 56年	顕彰対象区分（2）
<p>小学生より陸上競技を始め、その後、師範学校、実業団で活躍する。第1回（昭和55年）日本マスターズ陸上選手権大会から第27回大会（平成18年）まで連続出場し、常に上位入賞を果たし、最優秀選手賞をはじめ、数々の賞を受賞している。世界マスターズ大会・アジアマスターズ大会にも多数出場し優勝を果たすほか、数多くの世界記録、日本記録を樹立している。</p>						
7.	おおつき のぶお 大槻 信夫	（男） 100歳	大分県	水泳	活動歴： 90年	顕彰対象区分（3）
<p>10歳で古式泳法（山内流）を始め、現在も水泳に親しんでいる。大槻氏が90歳で大会記録を出すまでは90歳以上の記録はなく、90歳以上の高齢競技者の先駆的存在となった。そして、その後も25m背泳ぎ（95～99歳）日本記録樹立のほか、同種目において、さらに2回記録を更新した。25m背泳ぎ（100歳～）では日本記録を保持しているが、100歳以上での高齢者記録の達成は、日本で唯一の記録となる。</p>						

注）年齢：平成19年7月18日現在